

寺
こよみ

十月

一日 板屋お講

三日 善巧寺ゴルフ大会

六日 若婦花の会

十一日 清掃奉仕

十四日 富山滑川報恩講

〃 お道具磨き

十六日 三日市お講

十八日 おけそくもみ

一九日 報恩講

二〇日 報恩講

〃 三回忌法要

二二日 上、下飯野高畠

新浜報恩講

二六日 経田柳沢窪野田家

報恩講

二九日 東狐青木報恩講

三〇日 板屋報恩講

寺報

善巧

発行

☎ 938-0862 富山県
下新川郡宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
TEL (0765) 65-0055
FAX (0765) 65-0975

十月十九・二十日

報 恩 講

十月二十日

三 回 忌 法 要

十一月四・五日

空 華 忌



改築したピカピカの台所完成間近か

いじめによる少女少女の自殺や殺人事件など、悲しい出来事が起きるたびに、「命の重さ」を真剣に考えようと盛んに叫ばれます。そんな時、「たつた一つの命だから」とか「一度きりの人生だから」とよく言われるのですが、私はそれだけでは、計り知れない「命の重さ」を知ることではできないのではないかと思うのです。というのも、私の命は、私を取り巻く過去・現在・未来の無数の命に支えられてこそ存在し得る、ということを仏教では教えているからです。

親鸞聖人は、その過去・

現在・未来の無量の命に満ち満ちて、今ここに生きる私を支えてくださるもの、

それが阿弥陀さまの「無量寿のいのち」なのだとお示しです。『正像末和讃』に、

超世無上に摂取し

選択五劫思惟して

光明・寿命の誓願を

大悲の本としまたへり

とあるように、阿弥陀さま

「無量寿のいのち」

の大悲の根本は、「光明無量、寿命無量の仏になろう」との願いにありました。その願いのとおり、過去・現在・未来を貫いて、数限りない命に宿り、迷いの根本である我執の殻を破ろうと、「南無阿弥陀仏」の声となつてはたらく続けてくださる仏さま。その仏さまの声が、ようやく今、私の心の耳に届いて、私の我執の殻が破られるのです。東井義雄先生は、そのことを「死にながら、死なないで生き続けるいのち。自らも生き、他を生かし続けるいのち」すなわち「無量寿のいのち」をもらうということだとおっしゃいます。

こうして「無量寿のいのち」をたまわり、おかげさまで、今ここに、かけがえない、ただ一度きりの命を生きたことができますという感謝の心にこそ、計り知れない「命の重さ」を実感できるのだと思います。浄光寺副住職 藤澤信照師



天岸浄圓先生ご法話 (3)

皆さん仏様って、おわかりになっていきますか……。あまり聞かない方がいいでしょう。いつも拝読する「正信偈」には「法蔵菩薩因位時、在世自在王仏所」と、阿弥陀仏はご修行中のお名前を法蔵菩薩と申し上げ、お師匠様を世自在王仏と申し上げたとお説きになっています。その法蔵菩薩が阿弥陀如来という仏様になられるために、どんなご修行をなさったかということが『無量寿経』には、細かく説かれています。

その『無量寿経』には、法蔵菩薩のご修行の第一は「和顔愛語」と、説かれているのです。よく色紙や短冊に書いてあるでしょう？「ワゲンアイゴ」で……

難しい意味じゃないですね。「和顔」っていうのは、和やかでやさしい顔ということです。「愛語」は慈愛のこもった言葉、人を裏切らない言葉を使うという意味ですね。要するにおだやかな顔とやさしい言葉ということですよ。

「なんじゃ、たいしたことはない。ワシはいつでも、やさしい言葉と、おだやかな顔をしている」と、思っているのでしょうか。なんだったら一度、皆さんの一日二十四時間を朝から晩まで、ビデオテープにでも撮ってみると、その実態がよく解るでしょう。

どうです。考えてみると、無意識のうちに生活していますから、自分がどれだけ

顔を変えて生きているのか、案外気づいてないものですよ。百面相っていうのがあるけれども、私達は百面相どころじゃないでしょう。

今日も朝から今まで、相当に変わったはずですよ。そして、言葉遣いだってその時その時の状況、その相手によって、無意識のうちに変わっているはずですよ。ただ、変わっているという意識が全くといってよいほどないのですから、いつでも自分はやさしく、おだやかであると思ひこんでいるのです。

思うのは自分の勝手ですから、思っておればいいのですが、実際考えてみれば、犬だつて、猫だつて、鳥だつて、決して寄つてきやしません。餌でも持っていれば話は別でしょうが、それでも、餌だけとつてすぐ逃げていってしまうでしょう。たぶん、こんなヤツのそばに居たら、ろくなことはない、逃げるが勝ちと……思われているのでしょうか。

私達は、たかだか一日二

十四時間の間だつて、どれだけ顔を変えているのかわかりません。また、どれだけ言葉が変わっているのか。そしてその顔と言葉でどれだけ多くの人びとを傷つけているのかも知れません。実際、たった一日といつても、誰に対しても顔つき、態度を変えず、言葉を変えないと言うことは、簡単そうに思えて、大変難しいことなんです。

ところがね、法蔵菩薩はこの簡単そうに見えて大変なことを「兆載永劫」の間続けられたということです。実感できますか。ご法話のなかでお聞きになったことがあるでしょう。「兆載永劫」。「五劫思惟」というお言葉を。「一劫」とは、四十里四方の石を三年に一度天人が羽衣で一撫でする。この三年に一度、三年に一度が限りなく続けられ、その石がすり減って、完全に無くなってしまうまでの時間を「一劫」というのだというのです。四十里四方の

石というと、現在の日本の里程でいえば、富士山の四十倍よりまだ大きい石ということですから、実感しようもないし、実際、数えようたつて数えきれぬ年数じゃないでしょう。

でも、これが法蔵菩薩がご本願を思惟くださった時間であるといわれているのです。そして、この本願を仕上げるためのご修行の間が「兆載永劫」なのです。そのご修行の第一に出てくるものが「和顔愛語」だったのです。この実感することすらできない永い期間、菩薩は誰に対しても、どんな出来事にも、決してお顔を変えらるることなく、言葉を変えられることはなかったと、説かれているのです。果てしない永い間には、菩薩に対して敬意をあらわして接する人もあるでしょう。また、いい人ばかりではありません、憎しみの心をもつて対する者もあったでしょう。また、うれしいこと、悲しいこと、つらい

こと、さまざまな出来事があつたでしょう。けれども菩薩はそのいかなることに、「和顔愛語」を変えられることはなかったのです。相手が親愛の情をもって接してきても、また憎しみ、蔑みの心をもって対してきても、怨親平等の心をもって対してゆかれる、それが菩薩であり、仏様の真のお姿というものです。

どうです、仏様つて、わかつたですか……どうわかれたかな？ 仏様の「和顔愛語」が知れたとは、ただ仏様とはこんなお方だったのかと、仏様を向こうに眺めて解つたと言うことではないのです。仏様のお姿に對して、自分の百面相のようないさやがさが知られたということではないでしょうか。

そうです、親鸞聖人は二十年間、比叡山で仏様のことを学ばれたのでした。二十年間仏様のことを学び、仏様のことがわかったら、そして、修行をすればする

ほど、人はその分仏様に近づくとおもうのです。ところが、親鸞聖人はそうではなかったのです。聖人は仏様の尊さが知れば知れるほど、自分の醜い煩惱の姿がえぐり出され、明らかにされてゆかれたのです。私たちはそんな親鸞聖人の誠実に、限らない魅力を感じます。しかし、ご本人はどうだったのでしょうか。

どんな人にも、どんな状況にも、どんな言葉に對しても、微動だにしない、平等心を確立し、すべての人びとに慈愛をこめて生きてゆく、そんな智慧と慈悲とを兼ね備えたお方を、仏教では「聖者」といいます。その「聖者」であつてこそはじめて歩むことができる仏道、それを「聖道門」といいます。それに比べて私たちは真反對の生き方をしています。相手によって言葉は変わる、顔つきも変わる、態度も……しかも全く自覚がない。それを「凡夫」といいます。その凡夫が聖

者の道を歩もうとしても真剣でまじめであればあるほど、必ず行き詰まってしまうが、本当はおかしいのです。

ただし、単なる知識者は行き詰まることはありません。仏様のことを客觀的に知るだけなのですから。しかし、真剣に自らが仏になろうとする者は、必ずといってよいほど行き詰まってしまうでしょう。比叡山は聖道門の修行の山です。そこでこのような凡夫としかいえないような身が、この身のままに救われる道がないものでしょうか。それはいくら聞いても無理といふものです。聖道門にはそんな道はありません。ですから、聖人がたずねられても、答えてくださる方は一人もおられませんでした。

比叡の山におられないのなら、日本に仏教を根づかせてくださった聖徳太子に聞こう、日本仏教の原点に戻ろう。その想いが京都



隆弘法師手植えのあじさい



何十年ぶりに新調した七条



永代祠堂会



山本 撰先生
本山ご助成会に
ご出講 8/1



永代祠堂会 7/16~19



滋賀県本行寺にて
喜子前坊守の母の五十回忌

八月二十一日

秋立つや
母の墓碑銘
たしかめつ

喜子

の町なかの六角堂への百日の参籠となったのです。

六角堂は聖徳太子の建立のお寺として、京中の人びとの篤い信仰をあつめていました。参籠というのは、

あるお堂にお籠もりをして、仏様から夢のなかにお告げをいただくこととすることなのです。「この私はどうしたらよいのでしょうか」「比叡の山に残るべきでしょうか。それとも、このような私がこの身のままに救われてゆく仏道が、外にあるのでしょうか…あればお示ください！」聖人は思いを込めて願われたことでしょうか。

五十日、八十日、九十日と日が過ぎてゆくなか、ぼつぼつと焦りが出てくる頃、ようやく九十五日目、お太子様が夢のなかでお告げをくださったのでした。

現在残っている恵信尼様のお手紙には、その時の夢の告げは伝えられていません。けれども、実はきちつと書いておられたのです。聖人をお念仏の教えに導い

た、大切なお言葉ですから、別紙に書いて送られたのです。大切にしまつたので、なくなつてしまつたのです。大切にしまつたのも、善し悪しです。

そこで、そのお言葉について推測することはできません。時間が都合上ここではご紹介することは控えます。

結論から言えば、お太子様は「法然聖人をたずねよ、そこには聖になれないものが、なれないままに…それのみか、いかなる者にも開かれた仏への道がある。貴方の問いに答えてくださる方は、法然聖人をおいて他にはおられまい」と、教えてくださいました。

これこそ聖徳太子が教えてくださいました道であり、観音様がすすめてくださった道であると。恵信尼様は「やがてその暁いでさせたまひて」と、つづられていきます。夜の明けるのを待ちかねて、法然聖人のもとへゆかれたのでした。当時、

比叡山の行者が、法然聖人のもとへ入門するということは、比叡山への裏切り行為といわれても仕方なかったのです。

そして、聖人はその日から百日の間、法然聖人のもとへ通われたと、恵信尼様は書かれています。私はここにもすばらしいものがあると思います。というのは、法然様の教えてくださったものは、二十年間聖道門の学問修行を続けてきたものが、聞いて即座にすっきりと領解できるものではなかったのです。深い疑問がわいてくるのが当然だったのです。そのことはご本人の法然様が一番よくご存知であつたはずで

いや、ご法義は極めて簡単なのです。今日お互い様が見ている、ご本願の一つで凡夫がお救いにあずかり、お浄土に往生を遂げさせていただくという、まことに明解といわねばなりません。簡単なんです、この一言が当時の親鸞聖人に



▲青年盆会8/13



▲盆会8/16



'98 8 1

は、一度聞いて「さようで
ございますか」と、納得し
て、領解することができな
かったのでしょうね。そこ
で聖人は百日お通いになら
れたのです。その間、法然
聖人は同じことを、くり返
し、くり返し言いつづけら
れたのだと思います。一月
が二月になり、やがて三月
となります。法然様の尊い
ところは、普通の人だった
ら「あんた、なん日通って
来ているんや。まだわから
んのか」といつてしまうの
ではないか？と言うことで
す。でも法然様というお方
は、それを絶対にいわない
お方なんです。「まだわか
らんのか：」「これだけ言っ
ても、まだわからないか」っ
て言われても、わからない
ものは、わからないのです。
それを責められれば、その
次の日からは、もうお参り
できないんです。もう聴聞
できないんです。
いつも、
「わかりません」
「では、また明日」

次の日、
「…わかりません」
「では、また明日」
……人の常識でわかること
のできないことを、法然様
が一番よくご存知だったの
です。ですから決して責め
ることをされなかったのだ
です。
ご本願のおかげ様で、こ
の凡夫が仏様のお浄土に往
生させていただけるなんて、
人間の常識で納得いかない
でしょう。このご法義は納
得して身に付くものではな
いのです。不思議のご縁で
聞かせていただくのです。
「明日もまた」「明日もまた」
と、通いつづけてお念仏の
み教えがしつくりとお聞か
せただけになるようにするま
で、その決意の期間が百日
間だったのでしょう。通っ
た方も方だけれども、通わ
せた方も通わせた方で、も
のすごい方です。そのおか
げで、親鸞様にお念仏のお
ころが届いてくださったの
です。
やがてのこと、聖人のこ

ろにご本願のところが響い
てきました。当時親鸞聖人
は、まだ親鸞とは名のつて
おられませんでしたでしょ
うが、法然聖人は「親鸞さ
ん、私のような煩惱具足の
凡夫が、なぜお念仏できる
か、考えてみたことがあり
ますか」と、たずねられた
のでしょうか。「……」「子
供が父、母のことを慕い、
親をよぶあの声は、一体誰
が与えたのでしょうか…。
子が親を慕いよぶ声は、親
が育てた証です。よぶ声は
子供の声ですが、よばせて
いるのは親のこころです。
お念仏申すことはどうでしょ
うか、育てていただいたこ
とは、すべて忘れていても、
仏様にお育ていただいたあ
かしこそ、お念仏ではない
でしょうか。仏様が育てて
くださったのなら、お念仏
の衆生は仏の子です。仏の
子は必ず仏とならせていた
だくことができます」
時間がまいましたので、
ここまでにさせていただきます。

雪ん子劇団 鹿兒島公演

8/6、9

鹿兒島別院の皆さん 北隅組の皆さん
照明寺さん 藤谷亜太可さんたち

ありがとうございます

鹿兒島では、強い日射しが毎日の様に照り続けています。その中で初雪草だけは涼しげに風にゆらゆらゆられています。

先日は雪山様はじめ雪ん子劇団の皆様には大変お世話になりました。過密なスケジュールでお疲れになったことと思います。

公演を見にこられた方々も皆感動されていました。「来て良かったあ、もっと

他ん人も誘えば良かった。

まっくて良かった。感動しました。」門徒さんの言葉でした。私もずっと楽しみに待っていました。宮崎での公演が初めてで今回

が二回目。この話が決まった時から、皆一生懸命でした。そして皆感動しました。劇も感動しましたが終わつた後のシニアの方々の姿も、また感動でした。感動できる心を、そして涙を流せる目を持っていて本当に良かった。

た。心の底からそう思いました。人間で良かったなど。

また是非、鹿兒島へいらして下さい。今回、子どもさんが小さくて誘うことができなかった方が沢山いました。その方達にも是非見せてあげたいです。そして私達の子どもの世話をしても

らっていた、それぞれの父・母に。是非またお待ちしています。

それぞれに役割を分担し進めて参りましたが行き届

かない点もあったことと思います。お許し下さい。

鹿兒島へ初めていらした子どもさんもおいでだったことと思います。観光の間がゆつくりととれたら良かったのですが。またの御来鹿を本当にお待ちいたしております。

私事ですが実行委員としての初めての大会でしたので忘れられない夏になりました。深い感動をありがとうございました。本当に「あえてよかった」です。

劇団、シニアの皆様になしくお伝え下さいませ。またの再会を楽しみにいたしております。

合掌

平成十年八月十日

北隅組実行委員

藤谷亜太可



- 七日 上野報恩講
- 一二日 中新報恩講
- 一三日 出報恩講
- 一四日 魚津報恩講
- 一六日 浦山新お講
- 一七日 石田報恩講
- 一九日 中陣報恩講
- 二〇日 杉沢報恩講
- 二四日 浦山新報恩講
- 二六日 雪ん子経田小公演
- 二七日
- 二八日



空華忌
四日 午後七時半 初夜
五日 午前十時 連夜
午後一時半 満座
ご法話 利井明弘先生

一日 愛本新お講
三日 おけそくもみ

寺
こよみ

十一月

住職継職法要記念事業

第二期工事着工

昨年の住職継職奉告法要を記念しての第一期工事、

見を入れて更に設計ねり直しを行いました。

八月二日、業

者二組の出席のもと現場説明会を行いました。

業者は浦山の太藪建築KKと入善町板屋の島田工務店。

七月二十三日、岡田設計士さんを招いて営繕部会委員が設計写真を見ながら説明を受けました。又、使

う側の代表として女性委員が各々希望を述べ、その意

の二業者による入札が行われ、千四百五十万円で大藪建設が落札しました。十月一日のお講があるので、工



建設日記

になりました。

八月二十四日取り壊し開始。棚、天井、床の撤去が

始まりました。この工事に

事着工は出来るだけ早く、八月二十二日の営繕部会のあと、神子久美、高島祥子、菊地れい、田中まつゑ子、野島はつえ、本波ときゑ、

清水はなさん達が一日がかりで台所と物置の中のものを全て移動、重労働をしていただいたおかげですぐ工事にとりかかることのできる状態

お詫び

二期工事に入りましたので、この間にお寺でお勤めするご門徒さんのご法事は、お斎（お仏飯を頂いての食事）はお出しすることが出来ず申し訳ありません。

二期工事に入りましたので、この間にお寺でお勤めするご門徒さんのご法事は、お斎（お仏飯を頂いての食事）はお出しすることが出来ず申し訳ありません。

二期工事に入りましたので、この間にお寺でお勤めするご門徒さんのご法事は、お斎（お仏飯を頂いての食事）はお出しすることが出来ず申し訳ありません。

二期工事に入りましたので、この間にお寺でお勤めするご門徒さんのご法事は、お斎（お仏飯を頂いての食事）はお出しすることが出来ず申し訳ありません。

二期工事に入りましたので、この間にお寺でお勤めするご門徒さんのご法事は、お斎（お仏飯を頂いての食事）はお出しすることが出来ず申し訳ありません。

二期工事に入りましたので、この間にお寺でお勤めするご門徒さんのご法事は、お斎（お仏飯を頂いての食事）はお出しすることが出来ず申し訳ありません。

7/23 建設部会



8/2 現場説明



8/10 入札



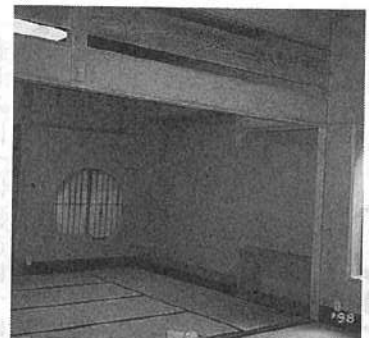
8/24 取り壊し開始



寺
こよみ

十二月

ぬり直した広間



- 一日 下立愛本お講
- 二日 愛本新報恩講
- 三日 愛本新中ノ口赤田報恩講
- 四日 大橋下村報恩講
- 九日 下村報恩講
- 一〇日 下立愛本報恩講
- 十一日 内山報恩講
- 十四日 浦山お講
- 一六日 お経会
- 一七日 音沢報恩講
- 二二日 黒西組歳末募金
- 三〇日 お寺の学校餅つき
- 三十一日 除夜会

報 恩 講

十月十九日 午後一時半 お速夜

午後七時半 お初夜

十月二十日 午前十時 お満座

ご法話 行信教校教授 藤澤信照先生

親鸞聖人のご法事ほんことま。必ずおまいりください。

釋俊之法師三回忌法要

十月二十日 午後一時半

ご法話 行信教校教授 藤澤信照先生

ごえはん、ごんげはんとは親しまれた第二十世住職玉雪院
釋俊之法師の三回忌法要です。どうぞおまいりください。

空 華 忌

十一月四日 午後七時半 お初夜

五日 午前十時 お速夜

午後一時半 お満座

ご法話 行信教校校長 利井明弘先生

明教院僧鎔さまのご法事です。聞法の秋、心の洗たく
をさせていただきます。

ご門徒報恩講

十月十三日から

年に一度のおとりこし報
恩講、どうぞご家族揃って
おまいりしましょう。

お仏壇のおそうじ、赤い
ろうそく、お香の準備は？

当日はお供えお仏飯、お花、
お念珠、聖典、式章など。

十月十三日富山からはじ

めますが、来年からは魚津、
出地区もこの頃にさせてい
ただきたいと思えます。

● 会費 九千円

● 台所改築費鐘桜会館建設
費

のご協力もよろしくお願い
致します。

ご奉仕おねがい

一〇月十一日 境内清掃

一四日 お道具磨き

一八日 おけそく

十一月三日 おけそく

ご寄進

本堂用椅子五脚 白鶴会

善巧寺仏教婦人会の前身、
白鶴会がこの度、会計をし
めることになりました。そ

れを皆さまのお役に立てれ
ばと、本堂用の三人掛の椅
子を寄進してくださいまし
た。合わせて十脚になりま
したので三十人の方が座る
ことができます。ありがと
うございました。

善巧寺仏教婦人会

さる七月十八日、善巧寺

仏婦の打ち合せ会を行いま
した。その中で、仏婦の活
動を進めていくにはお講の
組織に協力をお願いし、各
地区の代表を出すのが最も
良い方法だということにな
りました。今後各お講にご
協力をお願いして進めてい
くことになります。よろし
くご協力ください。



合 掌

本当に大変な夏でした。

降り続く梅雨、太陽の照ら
ない八月。素人目にも稲の
成長を思うと心が痛みまし
た。早々とお供えさせても
らった新米はいつもと変ら
ぬおいしさでしたが、栃木
県などでは全滅の所もあつ
たようで手放しでは喜べま
せん。

◇ ◇ ◇
台風の影響、毒物混入、
殺人、接待汚職等々暗い事
件もありました。アメリカ
の友人から日本はいつたい
どうなったのでしょうかと悲
しみの便りが届きました。

◇ ◇ ◇
悲しみにつけ喜びにつけ
よりそって下さる仏様のお
話を那須野、高務、山本攝
の三先生からお聴聞できた
ことは仕合せなことでした。

◇ ◇ ◇
暑い暑い鹿児島では暖い
心とうれしい思い出をいっ
ぱいもらって
きました。

